

みどりの散歩道

2025年12月
第6号

TOPICS

11月9日 寄居町ふるさとの祭典市・産業文化祭に出店！ 地域の方と交流・持続可能なまちづくりをPR



毎年秋に開催される寄居町の一イベント「ふるさとの祭典市・産業文化祭」。

商店街や地域団体が集まり、地元の特産品や体験型の催しが並び、まさに“寄居の魅力をぎゅっと詰め込んだ”お祭りです。

私たち「寄居の緑と空間を楽しむ会」も今年参加し、駅前の緑に親しんでもらうためのブースを出展しました。

当日は、駅前の寄せ植え街路樹で実際に使われている植物を題材にした「葉っぱ&どんぐりクイズ」を実施しました。

「世代を超えて愛され、手入れされる緑地にしたい」という願いを込め、子どもも大人も楽しめる自然体験を意識しました。

駅前を彩る街路樹をテーマに「葉っぱ&どんぐりクイズ」

クイズに使ったのは、サクラの葉っぱとコナラのどんぐり。

どちらも“聞いたことはある”植物ですが、実際に見比べる機会は意外と少ないようで、サクラの葉っぱは大人の方でも難しかった様子。

「サクラは花ならわかるんだけどね…」という声も聞かれましたが、会場近くの紅葉したヤマザクラをヒントにすると、「あ！これなの！？」と驚きながら正解してくださる方が多く、植物を見る目が一気に変わった瞬間でした。

一方で、小学生の男の子が二問とも迷わずスイスイ正解する場面も。日頃から身近な自然に触れていることがよく分かり、スタッフも嬉しい驚きでした。

こうしたやり取りを通して、「もっと多くの人に、植物を身近に感じる生活をしてほしい」そんな思いを改めて強くしました。



▲コナラのどんぐり、サクラの葉っぱを当てるクイズに挑戦。苦戦する方、簡単に答える方、さまざまでした。



▲会の活動の様子や自然の良さ、循環型の手入れの価値をお伝えしました！

(デジタルサイネージ提供：株式会社アート・コア様)

「落ち葉で物々交換会」のご案内も

ブースでは、12月6日(土)に開催した「落ち葉で物々交換会」の告知も行いました。「落ち葉や剪定枝、雑草などを「燃えるゴミに出すのではなく資源にする」という、私たちが大切にしている循環の理念をお伝えすると、多くの方が興味を持って耳を傾けてくださり、幅広い世代の交流にも繋がりました。

私たちの活動は、単なる緑地の管理にとどまらず、環境に配慮した“持続可能なまちづくり”そのものです。今回のお祭り出展をきっかけに、家庭や地域でも循環の輪が広がっていくことを願っています。

なお、「落ち葉で物々交換会」の様子は次号で特集予定です。お楽しみにお待ちしております。



みどりの リレーコラム



家庭菜園のススメ

～パッチワークの畑での野菜作りの話～

40㎡の畑を借りた。そこは、複数人が借りる広い畑の一区画にある。通称「市民農園」。畑の様子は様々で、畑の中を歩くと、パッチワークみたいだと思う。皆さん、無農薬だということが、私のお気に入りポイントである。

家庭菜園を始めて3つのメリットを感じている。

①おいしい！安心。自分で育てた野菜は安心で、香りも味も濃い。友人は、「スーパーの野菜と全然違う」と熱く語る。

②学び。これは畑（土）という環境に、種を播くという働きかけを通して起こる事象からの発見（気づき）である。「なぜ？」「なるほど！」「うまくいった」「失敗した」など…。それは、野菜のこと、気温や雨量、土の中のことなど様々ある。人参の芽は一体どれだ？大根が土から長く首を出しているが、青くなってしまうのか？やると見るとは大違いとは、全くその通り！一から自分で育てることは、疑問や驚きの連続、野菜が愛おしく感じられるようになった。また、土の中について。緑の会で出会った「土中環境」

（※1）という言葉がある。私流の解釈になってしまうが、畑の土の中のことを言えば、良い土とは、団粒構造が発達し、適度な水はけ、水持ち…人間の理想としては、元気の良い野菜が適量収穫できる土だと思う。私は、土を守るため、刈った草で畝を覆う、耕すのは最小限に留める、肥料は入れない、3つのことを決めている。もともと、数年使われていない区画だった。おかげで自然が良い土を育てていた。雑草に覆われた土は、直射日光にさらされることなく、土中には草の根が張り、ミミズや微生物が元気に活動していた。そこに私がやって来て、草を刈り、畝を作り、種を播いた。野菜の発育は順調で、我が家の食卓、友人へのお裾分けには十分な量が収穫できる。「お金も労力もかけたくない、ゴミを出したくない」が本音だが、土中をあまりいじらなかったことが、功を奏しているように思う。この経験を通して、「人間は自然の一部に過ぎない。自然のしくみに任せ、自然の循環に沿った働きかけをすることが、環境に負荷をかけず、自然の恵

みを受けられる。」ということを学んだ。これは、緑の会の植栽管理の考え方にも通ずるものを感じている。

③コミュニティ。畑では、自ずと野菜の話になる。40℃超えの8月には、例年なら下旬に行う秋野菜の種播きにも躊躇した。予測不能な時代だからこそ、会話（による情報収集）が役立った。それに、畑の先輩からの種のお裾分けは最高！種から育てた青山の枝豆の甘味には感動した。始めるまで想像もしなかったが、野菜という共通項で知り合いができ、職場や家庭以外の居場所ができた。そして物々交換によって分かち合う喜びも知った。こんな具合に、家庭菜園は私の暮らしを豊かにしてくれている。

※1「土中環境」……高田宏臣氏の書籍に詳しい

Contributor



寄居の緑と空間を楽しむ会
小出ちひろさん

管理作業に参加しませんか？

今後の管理作業予定日

12/20^土 | 1/15^木 | 2/19^木 | 3/21^土

集合時間：13：30

予約：不要

集合場所：Yotteco

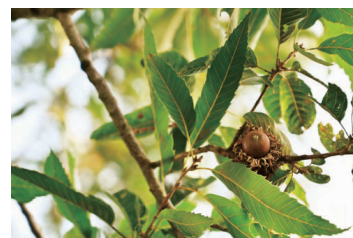
作業時間：1時間程度

持ち物

作業手袋、剪定バサミ、のこがま、汚れても良い服装、帽子、飲み物



クヌギ
（ブナ科コナラ属）



コナラと並び、雑木林の景観をつくる代表的樹種。幹肌も荒々しく野趣に富み、どんぐりは大きい。材は薪やシイタケの原木など幅広く利用されてきた。

